

事務事業名 道路改良事業

政策:01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策:01 道路網の整備・充実

部名:都市建設部

基本事業:02 生活道路の整備と維持管理

課名:土木課

計画年度	年度 ~ 年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民、生活道路（1・2級幹線以外の市道）		道路の拡幅と側溝等の整備により道路機能を充実することで、利用者の安全と利便性の向上を図る。 工事実施までの流れ 地元区からの要望書受付 現地調査 工事箇所の選定 地元協議 測量・調査 用地・補償 工事実施				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		平成21年度				
生活道路の機能が充実し、安全と利便性が向上する。		消耗品費 101,002円 委託料 11,488,083円 工事費 5路線 L=577m 49,998,900円 補償費 1,133,800円				
4 活動指標・成果指標・事業費の推移						
区分	指標名称	単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	市の管理する生活道路の道路改良工事件数	件	9	5	6	6
活動指標						
成果指標	市の管理する生活道路（1・2級以外）改良整備延長	m	739	577	800	800
成果指標						
事業費		千円	55,644	62,722	45,990	
		うち一般財源	千円	34,075	41,622	25,990
5 目的妥当性						
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い		市道を整備し利用者の安全や利便性を高めることは、道路管理者の責務であり、市の事業として実施することは妥当である。				
6 上位の基本事業への貢献度						
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業		生活道路を改良することは、道路の安全性や利便性を高めることとなるため、基本事業への貢献度は大きい。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討						
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他		本事業は生活道路の安全性・利便性の向上を図るための事業であり、対象や意図を見直すことはできない。				
8 有効性（成果状況）						
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない		地元調整がつかず工事が実施できない路線があったが、事業全体としては成果はあがっている。 今後、継続して事業を推進することで、成果向上の余地はある。				
9 有効性（成果向上余地）						
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し						
10 事業の再編成						
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない		類似の事業はない。				
11 効率性（コスト削減の方法）						
ある ない		現場条件に合わせ最大限に成果が得られる施工方法を検討し、コストの縮減に努めて実施しているため、コスト削減余地はない。				